

【全体概要】

三重県の東紀州地域はカンキツ栽培が中心の果樹産地であるが、獣害被害が深刻で、一部園地ではウンシュウ萎縮病が蔓延し、カンキツ類が栽培できない農地が広がっている。また、悲願の高速道路が開通し世界遺産「熊野古道」を抱え、観光産業に寄与できる特産物の導入が求められている。シマサルナシは全国では三重県熊野市が自生地とされており、本県では比較的大玉(約30g)で糖度も15%程度の優良な系統が見つかった。農家の経営安定と産地振興並びに観光産業の両方のニーズに応えるため、シマサルナシの優良系統を増殖し、県内のカンキツ栽培地域に導入する。

新品種・新技術等の概要

三重県南部には絶滅危惧種でありキウイフルーツの近縁種のシマサルナシが自生している。この果実は30g程度の小果であるが、キウイフルーツにはない機能性成分(ポリフェノール)があり、無農薬に近い栽培が可能で、これを活用すれば青果及び加工品として新たな需要が期待できる。平成15年から三重県が自生地から採取した9系統の果実特性を調査し、現在生食用1系統、加工用1系統を1次選抜した。経済栽培はまだ始まっていない。なお、自生地は三重県熊野市を北限として沖縄にかけて太平洋岸に見られる。



主な取組内容

農業研究所内で選抜された優良系統の特性調査を実施し、着果管理、貯蔵流通、育苗技術の確立を行うとともに果実の付加価値向上のためのアレルギー反応評価、学校給食への利用促進のためのアンケート調査を行った。さらに、栽培技術の確立を目指し、生産者と協力してシマサルナシの栽培について現地実証ほを設けた。同時に、実需者と連携してシマサルナシ果実の品質評価および加工適性の検討、商品化について検討した。

コンソーシアム候補の体制図

三重県農業研究所紀南果樹研究室が中心となり、生産者、県行政担当課、実需者との連携を図りながら、各機関の調整や事業の進行管理を行う。実需者は、量販店への出荷・販売を行う全農みえを想定する。さらに、加工業者として三重県菓子工業組合等と連携する。産地指導機関としては、対象地域普及センターが中心となり農業革新支援専門員とも連携して担う。

三重県

関係機関の総合調整、栽培指導

全農みえ

販売に関する評価

三重県菓子工業組合等

品質評価、商品開発

生産者

栽培技術確立

課題と今後の対応

- ・現地実証圃を設置したことで、栽培管理における技術支援が必要となるため、現地巡回を行い指導に当たる。栽培技術の確立を目指し、栽培管理のマニュアル化を進める。
- ・加工品開発の検討のため、和菓子と洋菓子で取り組んだところ洋菓子での評価が高く、今後は洋菓子向けの加工品開発を進める。
- ・実証ほの設置、実需者を交えた加工品開発及び生果の販売方法の検討、県外における自生地調査などの活動を通じ、コンソーシアム形成に向けた機運を高める。
- ・付加価値向上のため新規機能性成分(ポリフェノール)の探索を行う。